

令和5年度 第2回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録

日時：令和5年12月6日（水）18：30～20：30

会場：練馬区役所アトリウム地下 多目的会議室

1. 事務局長挨拶

お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。本日出席されている委員の皆さまには日頃から様々な場面でお世話になっている。今日は、委員の皆さまに同行して頂いた地域福祉活動団体インタビューの報告をさせて頂く。限られた時間ではあるが、意見や感想等、積極的にご発言を頂き、第6次地域福祉活動計画作成のヒントにさせて頂きたい。よろしく願う。

2. 練馬区地域福祉計画進捗状況報告

委員：練馬区の令和7年度から11年度までの次期地域福祉計画の進捗状況について報告する。

次期計画で新たに盛り込む主な計画について報告する。1つは福祉サービスを利用しやすい環境をつくるため重層的支援体制整備事業実施計画を盛り込む。社会福祉法改正により、地域住民の複合化した支援ニーズに対応する包括的支援体制を推進するため、アウトリーチ支援や参加支援等5つの事業を具体的に実施する重層的支援体制整備事業が創設された。ひきこもりや8050問題等について複合的な課題を抱える世帯に対し支援を行っているが、支援につながらない人に対して区民や地域団体と協働して早期発見や居場所づくりの場が必要という課題がある。令和5年度から、アウトリーチ型支援・社会参加支援による居場所支援事業を実施している。

次に2つ目に盛り込む再犯防止推進計画について報告する。再犯の状況として検挙率は年々減少しているが、再犯率は約半数である。国や都でも計画を作成し、地方公共団体としても努力義務になっている。策定の目的は罪を犯した人が地域社会の一員として社会に復帰するための必要な取り組みを推進し、安全・安心な地域社会を実現することである。

計画の体系は再犯防止推進の目的と地域福祉計画の目的が合致するため包含する形で策定する。

続いて、再犯防止推進検討会について報告する。再犯防止推進計画の策定にあたり、再犯防止に関する現状と課題の把握、必要な支援策の検討を行っている。社協の職員にも参加してもらっている。今年度第1回検討会は6月末に開催。東京保護観察所の方から国の再犯防止推進計画の説明をもらった。区の既存事業を再犯防止の視点で洗い出して庁内横断的な体制を整備すること、重層的支援体制整備事業の実施計画に連動して、他機関を巻き込んで出所者の支援をしていくべき等の意見を頂いた。

第2回検討会では、就労と住居のテーマで話し合われた。

就労支援において、ハローワーク池袋が練馬区民にとってアクセスしやすい場所に対応できるようになってほしいという意見を頂いた。

住居確保においては、居住支援法人の支援が手厚くなるとよいという意見を頂いた。居住支援法人とは低所得者や高齢者等、住宅確保に配慮が必要な人への対応をする窓口であり、今後、区としても居住支援法人に対する国や都の動向に注視していく。

第3回検討会では、保健・医療・福祉サービスの利用の促進をテーマに話し合われた。

障害者や薬物依存の支援について意見を頂いた。意見は計画策定の参考としていきたい。今後のスケジュールについては、残り2回開催を予定している。

続いて、地域福祉計画策定調査についての報告をする。

区民の意見を計画に反映させるため、10月～12月にかけて3つの調査を実施した。①区民ニーズ調査（区内18歳以上3000人）②地域福祉関係団体調査（町会、自治会・老人クラブ等）③地域福祉関係者調査（民生児童委員・保護司等）

回収率は

① 区民ニーズ調査 42%

② 福祉関係調査 60.6%

③ 3 つ目は現在集計作業をまとめている途中で、結果が出たら策定委員会で報告する。

今後のスケジュールについて、3 月に親会と部会を開催。来年度は親会 6 回、部会 3 回ずつそれぞれ開催。素案作成後、パブリックコメントを行い、令和 7 年 3 月に計画策定予定。

今後、社協の地域福祉活動計画と方向性を合わせながら策定に向けて進めていきたい。

委員長：何か質問は。

委員：区民ニーズ調査の中で満 18 歳以上の区民の 42%が地域活動について考えている。別の地域でも地域福祉活動計画に関わっているが、20 歳代の若い層で地域福祉活動への関心が高まっている傾向がある。これまで 60 歳を過ぎてから地域活動をするイメージだったが、若い人が地域活動に取り組みたいが、なかなか地域とつながりにくいこともある。区民ニーズ調査の結果、今後若い人がどんな行動に移してくるのか注視していきたい。

委員：区の再犯者の人数とそのうち知的障害を伴う人の割合、それに対してどんな支援につなげているのか、わかる範囲で教えていただきたい。

職員：区では検挙者数と再犯率は把握しているが、それ以上のデータは確認していない。令和 3 年度は検挙者数 619 人、そのうち再犯者 325 人、再犯率 52.5%であった。こういった方への支援の必要性を感じている。

委員：軽犯罪歴は 20 年前では重度の知的障害の割合が多かったが、現在は軽度の割合が多い。区内では現在どういう状況なのかを踏まえて、今後の対応を考えていく必要がある。

3. 第 5 次地域活動福祉活動計画の取り組み状況について

【資料 1：「第 5 次地域福祉活動計画 推進評価チームの取り組み」参照】

職員：ネリーズ通信チームでは年 4 回通信を発行する。手に取ってみようかと思うようなタイトルや読みたくなる記事をネリーズとともに考えていきたい。

ホームページチームでは視聴されやすい工夫を試みた。他地区社協のホームページも参考に周知方法を検討していく。

評価チームでは令和 5 年度の各部署・委員会・チーム等の取り組みについてまとめていく。令和 4 年 6 月の策定・推進評価委員会でもお示した中間評価で整理し後半に向けて掲げた取り組みについて評価し、課題の整理・分析を行う。

【資料 2-1： 第 5 次地域福祉活動計画取り組み報告書（大泉地区懇談会）参照】

令和 5 年度から 4 つの地区別の懇談会を再開した。

参加者は 20 名。参加者からは「ネリーズになって数年であるが、あまり役にたっていない気がする」「どのような活動をしていけば良いかわからない」といった声が挙がった。ネリーズマインドが大切、何かをやらなければいけないということではなく、何かあれば発信したりしながら、ゆるやかにつながり続けることが大切であることを共有した。会場となった大泉障害者支援ホームから社会福祉法人等ネットの関わりについて話していただいた。

【資料 2-2： 第 5 次地域福祉活動計画取り組み報告書（石神井地区懇談会）参照】

参加者は 8 名。参加者からは「地域住民に情報が届くことが大事。ネリーズが広めていくことが大事」、「ネリーズは社協の案内役」という声が挙がった。また、「子どもたちがいるから地域とつながれる」という声もあった。ネリーズ懇談会に参加した委員に一言いただきたい。

委員：石神井地区懇談会に参加した。ネリーズだが地域とのつながりが薄く孤立を感じている、ネリーズ同士のつながりが持てないとの意見があり、今後の課題と感じた。参加者のうちコンビニの店長を

している人から「低所得の高齢者が万引きをしてしまうことがあり、なんとかしたいが、どう対応したらよいのか」というお話が印象的だった。小さなうちの活動を知り、学校に行かない選択をしている子どもを、学校に行かせればよいという考えではなく、違う居場所の提供や役割・組織の必要性を感じることができた。

【資料2-3：ネリーズかるた報告書 参照】

【資料3：事例⑤】

キーパーソンチームで検討を重ねた5つ目のういんぐの事例。ういんぐの利用者Aさんがいらしたのでコンビニの店長から相談を寄せてもらえるようになり、募金箱の設置協力の発展につながった事例。キーパーソンチームでこの事例を検討くださった委員に一言いただきたい。

委員：本来の業務を超えて、普段からお客への気遣いがあるコンビニの店長が、ういんぐの職員とつながり、地域の支援につながった事例。

Aさん自身も店長とういんぐをつないだキーパーソンと言える。コンビニを通じて人との関係が生まれたということが、社協の活動と地域をつなぐきっかけとなった。地域に目配り、気配りしてくれる人がいることが、再犯防止にもつながるのではないかと。人の目が無くなった、交流が無くなった現在、改めて、気づく・話すことでそれぞれの立場でつながっていくことを意識してやっていけると良いと感じられた事例である。

4. 第6次地域福祉活動計画策定に向けて（資料4参照）

職員：資料の4-1と4-2、参考資料の一式を用いて第6次地域福祉活動計画策定に向けた地域福祉団体へのインタビュー実施について報告する。このインタビューに関しては、策定委員の皆さまにもご参加いただき感謝申し上げます。まず、資料4-1について、こちらはインタビュー実施に当たっての内容や、実施手順を定めたもので、後程ご覧頂きたい。次に、資料4-2の報告書のまとめと参考資料のインタビューシートについて報告する。このインタビューに関しては、策定委員の所属する団体にもインタビューさせていただき、同様に取りまとめをさせて頂いた。ご協力に感謝申し上げます。資料4-1のまとめ表は団体名、実施日、参加者名、団体の主な活動内容、インタビューのポイントの順で記載している。インタビュー内容のポイントはこちらで次期活動計画に繋がると思われるものをいくつかピックアップしている。【インタビュー団体：1東京保健生活協同組合 あったかフードバンク大泉実行委員会、2NPO法人ハッピーひろば、3ブーケの会（練馬認知症の人と家族の会）、4NPO法人成年後見推進ネットこれから、5ONE&ONLY、6NPO法人おちゃ福、7不登校・ひきこもり・発達障害地域家族会「灯火」、8石神井・小さなうち、9ピッツェリア ジターリア ダ フィリッポ、10えるでい〜学習障害について考える会〜、11Willの会、12なゆたふらっと、13NPO法人IamOKの会、14ぶどうの木】今回のインタビューでは内容として、社協に期待する部分では「社協と一緒に行政や企業、団体などとのつながりを作りながら活動を充実させていきたい」といった声を上げた団体が多かったと思う。また、活動をする上での課題や継続性などの相談にのってほしいというところもあった。

詳細は参考資料のインタビューシートをご覧頂きたい。

今回のインタビューの感想を頂きながら、第6次計画にこういったことを入れたらいいとか、こういったことが必要だとか、次期計画に反映できるような意見を頂きたい。

委員：区内のすべての町会連合会の加入数が減少している。昔は町会の中で地域課題を解決し、子どもたちが成長していく場であった。お祭り等で人間関係を学ぶ場が町会にはあったが、地域が弱くなり、今は地域課題を社協で相談し解決する時代となった。

副委員長：練馬は人材の宝庫であると改めて感じた。インタビューで初めて出会った方がたくさんいたが、3つの層に分けられると感じた。①自分が突き動かされて始めた人、②障害や不登校の子を持つ当事者として動き始めた人、③小児科医やイタリア料理店主等、業種の枠を超えて関わっている人である。

「小さなうち」に参加した時、不登校としてではなく、学校に行かない選択をしている子どもたちという視点で子どもとかかわっていることの認識の違いは大きい。例えば「灯火」と「小さなうち」がつながれば、大きな力になるのではないか。社協が架け橋になることを期待している。

委員：「灯火」に参加した。インタビューをきっかけに「IamOKの会」とつながることができ、ありがたかった。インタビューは初めての取り組みだったが、社協の職員にとっても良い機会だったのではないか。地域福祉を考えるうえで、インタビューした団体は地域の宝であり、つながりを広げていくことが社協の役割だと思う。活動を大切にしながら、課題を発見できると思う。

委員：インタビュー内容を拝見すると、社協への強い要望を感じる。このうち、一つでも実現していくことが大切ではないか。

委員：14団体のインタビューの選定基準について確認したい。

職員：普段からつながりや関係がある団体を各部署で出し合って検討し選定した。

委員：3か月で14団体のインタビューを行ったのは大変だったと思う。すべてを実現するのは難しいと思うので、息切れしないように頑張ってもらいたい。

委員：社協の職員と直接自分たちの活動を話げできた良い機会だった。一つのテーマに限らず、自由に忌憚なく話げできたことで、つながりが広がった。

「えるでい」について、学習障害で中高生の居場所がなく、情報として知らないことも多い。社協と区の違いが分からない人が多く、社協と一緒にやっていくスタンスであることをもっと伝えていくべきと感じた。

委員：「ONE&ONLY」に参加。診察ではなかなか聞けないお話が聞けた。地域の情報誌や社協のパンフを置いて手に取れるよう優しい雰囲気のところだった。忙しい医師が地域への愛情と必要性を感じて立ち上げた団体で、他のすべての団体もそういう想いで立ち上げていると感じた。

「ぶどうの木」は秘匿性が高いが、社協の後押しがあった。活動内容について知らない人が多いが、よく話を聞いていただき、うれしかった。利用していただきやすくなったと思うし、これからそうなればよいと感じた。今回一緒に交流できたことで、お互いが必要な時に助け合えると思った。

委員：「Willの会」「ハッピーひろば」「成年後見推進ネットこれから」の3か所に行った。すべてに共通していたのは、どの団体もエネルギーにあふれていること。年齢は関係ないと感じた。高齢化も進んでいるが、地域のために何かをしたいということが共通している。いくつになっても何かをしたいという相談ができるところが社協であると思う。障害や高齢という理由でできないではなく、どうやったらできるようになるのか、それがだれにとっても住みやすい地域、一人の不幸も見逃さないことにつながると思う。

委員：インタビューを通して、様々な団体があることを理解できた。主な活動内容で生きづらさを抱えた人への支援や、団体への意見や担い手不足、周知や居場所の必要性等、地域の課題がよく分かる資料だと思う。インタビューシートを熟読し、区の計画にも反映させていきたい。

委員：町会の加入率は下がっているが、町会は住民にとって一番身近な団体のため、区でも加入率を上げていけるよう取り組んでいく。インタビュー団体の中には区と関わりがあるところもあるが、行政とつながる重要性を感じているところが多く、区として「つながるフェスタ」を開催し、団体を知ってもらう機会を設けている。行政とのつながりを増やしていくためにも、区も戦略を立てて臨んでいく必要があり、社協と連携しながら、対応策を検討していきたい。

委員長：職員からも何か意見・感想はあるか。

職員：「フィリップ」に参加。地域福祉の視点に経済的な観念をもっている場所であり、皆さんにお伝えすることができて、よかったと思う。

職員：「灯火」に参加。代表は生活サポートセンターの運営委員で、実際に訪問して現場の声を聴けたのは大変貴重だった。委員より、社協と出会い「IamOKの会」が始まったこととお話され、社協職員と

して、人との出会いを大切にしていけば、地域が広がっていくことを感じ職員として励まされた。

職員：第6次地域福祉活動計画の骨子案を作成するにあたり、委員長より、地域の声をもっと聴いては、との提案を頂き、インタビューにつながった。策定委員と一緒に行ったことで一緒に第6次地域福祉活動計画を策定していく流れを作れたと思っている。

職員：「成年後見推進ネットこれから」と「灯火」に参加。「灯火」では、ボランティアセンターが今年度から新事業として、ひきこもりや8050問題を抱えた世帯へアウトリーチ支援をしていることを説明したが、まだ認識されていないことを感じた。社協がこういった相談を受けていることをもっと伝えていくことが必要だが、うまく伝えられていない。一緒に行った委員から当事者家族の方に「皆さんと一緒にやって行きましょう」とお話していただき、社協がやっていくべきことがあると同時に、地域の皆様と一緒にやっていくのだと感じられた良い時間だった。

委員：資料3のキーパーソン事例の中で、Aさん自身がキーパーソンといえるのではないか、その視点が大切だと感じた。区の地域福祉計画の中で、若い年代層が地域に関わりたい気持ちをどう実現していくか、町会の加入者減少についても法人ネットの取り組みと合わせると、ふくらみを持たせられると思う。インタビュー団体はテーマ別に活動している団体が多いが、地域の横のつながりが無いと難しい。町会も地域の若い年代層が入らないだけでなく、年配層も活動がしんどくて減少している。横のつながりは団体同士だけでなく、既存の団体と町会がつながることも提案していけると思った。区の地域福祉計画において町会自治会の調査が入っているので、区と社協の活動計画に連動させ反映させていけるのではないか。

第6次地域福祉活動計画策定までのスケジュール（案）【資料5】

職員：地域のインタビューを通じて地域を良くしたい団体が多いことを強く感じさせられた。今回のインタビューを反映し、肉付けした骨子案を来年2月予定の策定委員会でお示ししたい。また来年度6月の策定委員会にて目次や原稿について中身を検討していきたい。来年度策定委員会は4回実施予定で、素案を示し、第6次地域福祉活動計画の説明、パブリックコメント実施の方向性を示していきたい。11月に素案を固め、2月に計画案を委員会で最終決定していきたい。

委員：社会が大きく変化し、今後の世の中も厳しい見通しの中、社協の役割はますます多くなっていく。社協の役割を小さくしていくには、子どもたちの社会性を育てる必要がある。学校や塾の往復ではできない、新しいものを生み出していく創造的な人間を育てていくためにどうしたらよいかの視点で、第6次地域福祉活動計画を考えていく必要がある。

5. まとめ

副委員長：インタビューを受けた団体にとっては、社協が出向いてきたという姿勢が伝わった機会だったと思う。灯火では「要件が違うから利用できないと言われ、つらい気持ちになった」という意見があり、区が出向いて話を聞きに来ることができたら嬉しいと思う。社協だけでなく、区も地域に出向いていく姿勢が必要だと思う。

委員長：インタビュー先に4か所訪問させてもらったが、訪問先にはキーパーソンがいてエネルギーを感じた。資金等の課題はあるが、継続して運営されていることに敬意を抱いた。「社協は宣伝下手で、何をしているのか分かりにくい」という意見が多く、課題のひとつと思った。一方で「区とつながり連携したい」という意見も多く、区とつながることで活動資金等の相談ができる可能性を感じた。区とのつながりを今後どのようにして作るのかが課題である。インタビュー訪問は楽しかった。また機会があれば是非一緒に参加したい。

6. その他

次回の日程について

日時：令和6年2月16日（金）18時30分から

以 上